

## 三井金属

積層セラミックコンデンサ向け  
アトマイズ銅粉を50%増産

三井金属鉱業(西田計治社長)は、積層セラミックコンデンサ(MLCC)向けアトマイズ銅粉の生産能力を約50%増強する方針を決定した。

同社のアトマイズ銅粉は、機能材料事業本部機能粉事業部の神岡鉱業(株)金属粉工場(岐阜県飛騨市)(以下、神岡)、湿式銅粉は、同事業部の彦島製錬機能粉工場(山口県下関市)で製造している。

神岡鉱業の生産能力増強に加え、彦島製錬機能粉工場にアトマイズ銅粉の新工場を建設する。これにより、両工場に合わせてアトマイズ銅粉の生産能力を約50%引き上げる。神岡鉱業は2019年4月に増強を完了、彦島製錬機能粉工場は、20年4月の稼働予定。

三井金属のMLCCの外部電極向け銅粉製造では、高温で溶解した金属の溶湯に高圧水を噴射・衝突させて、金属粉末を製造する「水アトマイズ法」による微粒銅粉と湿式還元法による銅超微粉の2つの製法を用いている。

昨今、ハイブリッド車の増加や先進運転支援システム(ADAS)等、自動車の電装化に加え、

スマートフォンの高機能化、や家電製品のモノのインターネット(IoT)化によりMLCCの需要が急拡大している。同社は、将来の更なる需要増に備えてアトマイズ銅粉の生産体制の増強が必要と判断した。

納涼船上サマーパーティーを開催  
組合活動活性化に取り組む

## 大阪非鉄金属商工協同組合

大阪非鉄金属商工協同組合は3日、会員の懇親と組合活動の活性化を目的に「船上サマーパーティー」を開催、組合員35人が参加した。今年度から新たに理事長に就任した橋本健一郎氏(橋本アルミ取締役)は、組合員数の拡大、組合活動の活性化と改革を最大のテーマに理事長職に取り組んでいる。この催しもその一環として開催。冒頭の挨拶では、世界経済の懸念となっている貿易摩擦や連日の猛暑に負けることなく事業発展に努めて欲しい、と述べた。また、来年の新年総会を、旧第四師団司令部庁舎(もと大阪市立博物館)を



組合員数の拡大をテーマに

世界を結ぶ循環流通サービス  
原料から製品まで

Ogico OHSITAKI Corporation

銅・亜鉛・鉛・錫・ニッケル・アルミ・非鉄金属全般

## 株式会社 扇谷

本社 大阪市西区土佐堀町1丁目3番7号  
tel:06-6444-1521~1530

東京支社 東京都千代田区神田錦町3丁目15番地  
tel:03-5282-4800

名古屋支社 名古屋市中村区名駅3丁目16番22号  
tel:052-571-2005

海外 シンガポール・香港・タイ・台湾・  
マレーシア・フィリピン・上海・深圳・ベトナム

<http://www.ogico.co.jp>

同社は、湿式銅粉について、彦島製錬機能粉工場で製造ラインを増設し、生産能力の40%引き上げをすでに進めており、今年9月に稼働する予定。

改修、昨年オープンした「MIRAIZA OSAKA-JO(ミライザ大阪城)」で開催することを告知。

さらに、大阪非鉄金属商工協同組合が幹事担当となる非鉄金属リサイクル全国連合会の次年度総会をユニバーサル・スタジオ・ジャパン(此花区)で開催する計画を発表。是非成功に導きたい、と意欲を表した。

続いて、保井松雄直前理事長(保井金属社長)の乾杯でパーティーが開宴した。船は若松浜公園船着き場を出発し、天満橋の下を抜け、造幣局、桜ノ宮橋を経て毛馬開門まで北上。組合員相互の情報交換など懇親を深めると共に、大川をめぐる2時間のクルージングを楽しんだ。



組合活動活性化に意欲

日刊金属 既刊収録サイト



<https://nikkankinzoku.co.jp/>